

**国道10号加治木町日木山地区地すべり検討委員会(第2回)の開催**  
[一般国道10号 法面崩落の恐れ(第25報)]  
(梅雨前線活発化に伴い大雨(第58報))

**1. 第2回検討委員会の開催**

- 平成18年8月10日10時から加治木町消防会議所において、国道10号加治木町日木山地区地すべり検討委員会(第2回)を開催しました。

**2. 議事【主な内容】**

(現状報告)

- 地すべりは沈静化傾向にある。

(応急対策について)

- 実施済の水抜きボーリングは、地すべりの沈静化に寄与していると考えられる。
- 地すべりの運動抑制に効果が期待できる押さえ盛土を早期に実施する。

(警戒避難体制について)

- 住民に対する避難基準については、伸縮計による基準(1時間4mm以上の場合に避難勧告)によることとし、基本的には国道の通行止めと同じとする。
- 台風時は、降雨にかかわらず早めに避難してもらうことが重要。
- 警戒避難の基準として、雨量については現行の避難勧告等の雨量基準の見直しを行なうことが望ましいとの提案があった。

(今後の予定)

- 今後、調査ボーリングや歪計、水位計の観測を実施し、地すべりのすべり面、範囲を決定し、恒久的な対策を検討する。

[ 詳細は別添資料 ]

**【問合せ先】**

鹿児島県土木部

砂防課技術補佐 田ノ上 逸郎 (たのうえ いつろう)  
住 所：鹿児島県鹿児島市鴨池新町10-1  
電 話：099-286-3613(直通)  
f a x：099-286-5627

九州地方整備局鹿児島国道事務所

管理第一課 横手 譲二 (よこて じょうじ)  
住 所：鹿児島県鹿児島市浜町2-5  
電 話：099-216-3855(直通)  
f a x：099-225-6051

九州地方整備局

道路部 道路管理課課長補佐 志賀 浩二(しが こうじ)  
電 話：092-476-3533(直通)

## 第2回委員会のまとめ

### 地すべりの状況について

- ・現在、斜面の動きが見られるのは伸縮計IS-1に僅かな変位が見られるのみであり、伸縮計IS-2からIS-5については明確な変位は見られないことから、地すべりは沈静化傾向にあると考えられる。
- ・新しい亀裂（伸縮計IS-1の上部）は、今回動いている斜面に伴って新たに発生した亀裂と考えられる。（延長30m、幅40cm、斜長120cm）
- ・斜面右側の新しい亀裂（伸縮計IS-6設置箇所）では、雁行配列（\*注1）が見られるため地すべり上部に見られる亀裂とは性質が違う可能性がある。今後の状況を見て見極める必要がある。  
\*注1）亀裂が1本ではなく、同じ方向に何本もの亀裂として配列する様子を言う。

### 水抜きボーリングについて

- ・水抜きボーリングについては、地すべりの沈静化に寄与していると考えられる。
- ・現在の状況であれば、すぐには新たな水抜きボーリングは必要ないが、大きな降雨を経験していないため、今後の降雨状況には留意すること。

### 押え盛土について

- ・押え盛土については、盛土地盤における調査結果から実施可能と判断されるとともに地すべりの運動抑制に効果が期待できるため、早期に実施する。
- ・ただし、現時点では不確定な要素が多いため、垂直ボーリングを行い、地下水位、すべり面を特定し、押え盛土の再計算を行う必要がある。

### 調査ボーリングについて

- ・地すべり土塊の内側（No.6～No.9）については、一本ずつ慎重に作業する必要がある。
- ・T-1からT-6については、現在地すべりの影響がない範囲であるため、同時並行で実施する。
- ・No.6の両側（Tの法線との中間）にボーリングを2本追加し、既設のNo.1からNo.3を含め全17本を実施する。
- ・実施にあたっては、伸縮計、ひずみ計等の観測データを常にチェックし、注意しながら引き続き作業を進める。
- ・最初にNo.7とNo.4を実施、その後No.6、No.5、No.8、No.9の順に進める。

### 警戒避難について

- ・住民に対する避難基準についても、伸縮計による基準（1時間4mm以上の場合に避難勧告）によることとし、基本的には国道の通行止めと同じとする。
- ・台風時は降雨にかかわらず避難してもらうことが重要。
- ・避難準備、避難勧告の雨量基準については、安全側を考慮して厳しい基準から始め、工事進捗や降雨の経験、観測結果をみて緩和していく。住民にも十分な説明が必要である。
- ・例として、針原災害を参考に以下のような基準が提案された。

(見直し基準)	連続雨量	時間雨量
避難準備	50mm	15mm
避難勧告	80mm	25mm

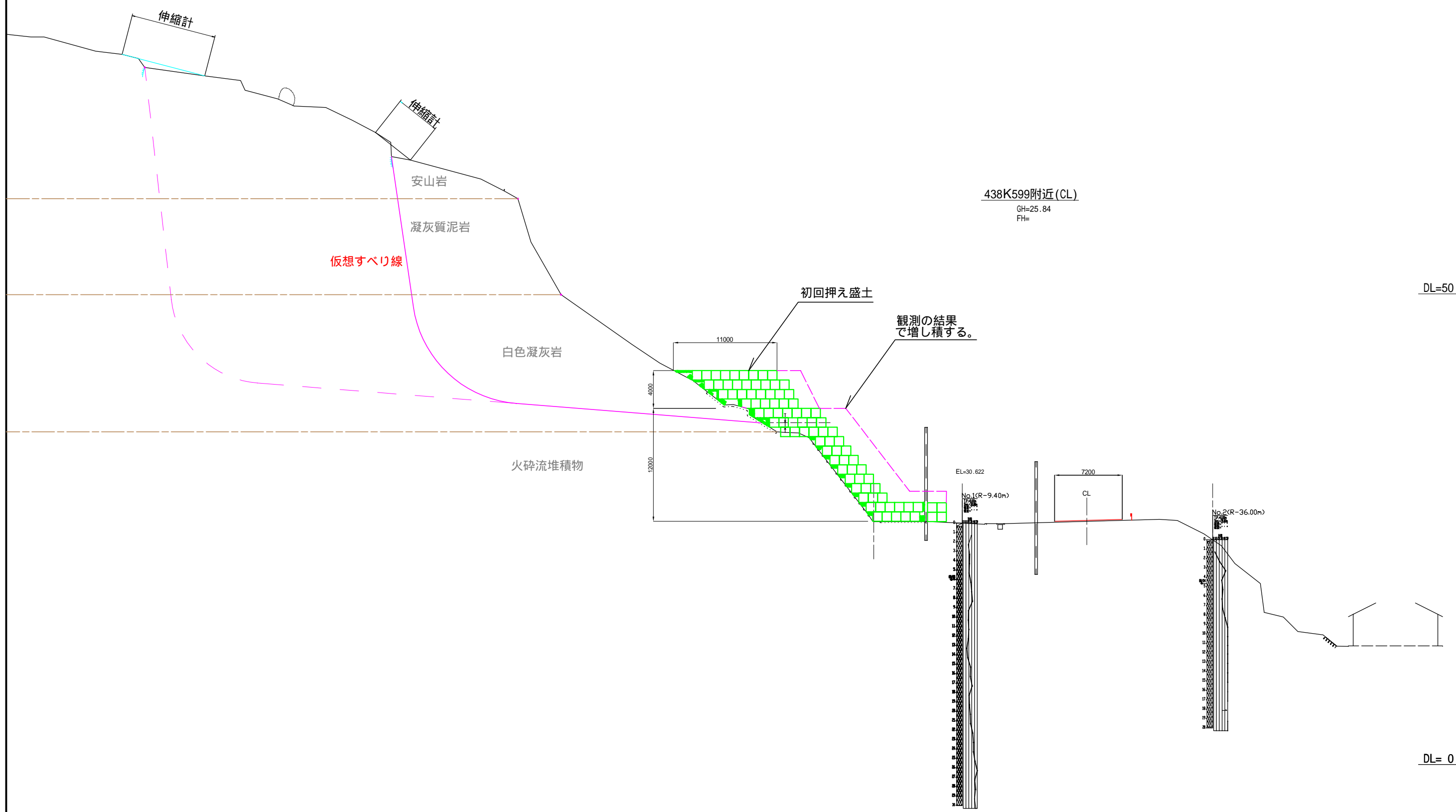
### 今後の予定

- ・今後、調査ボーリングやパイプひずみ計、水位計の観測結果より、地すべり断面・範囲を決定し、恒久的な対策の検討を実施する。
- ・次回の委員会については、地すべり断面・範囲が特定され、地すべりの機構解析結果が出る頃（早ければ9月末頃）を予定。

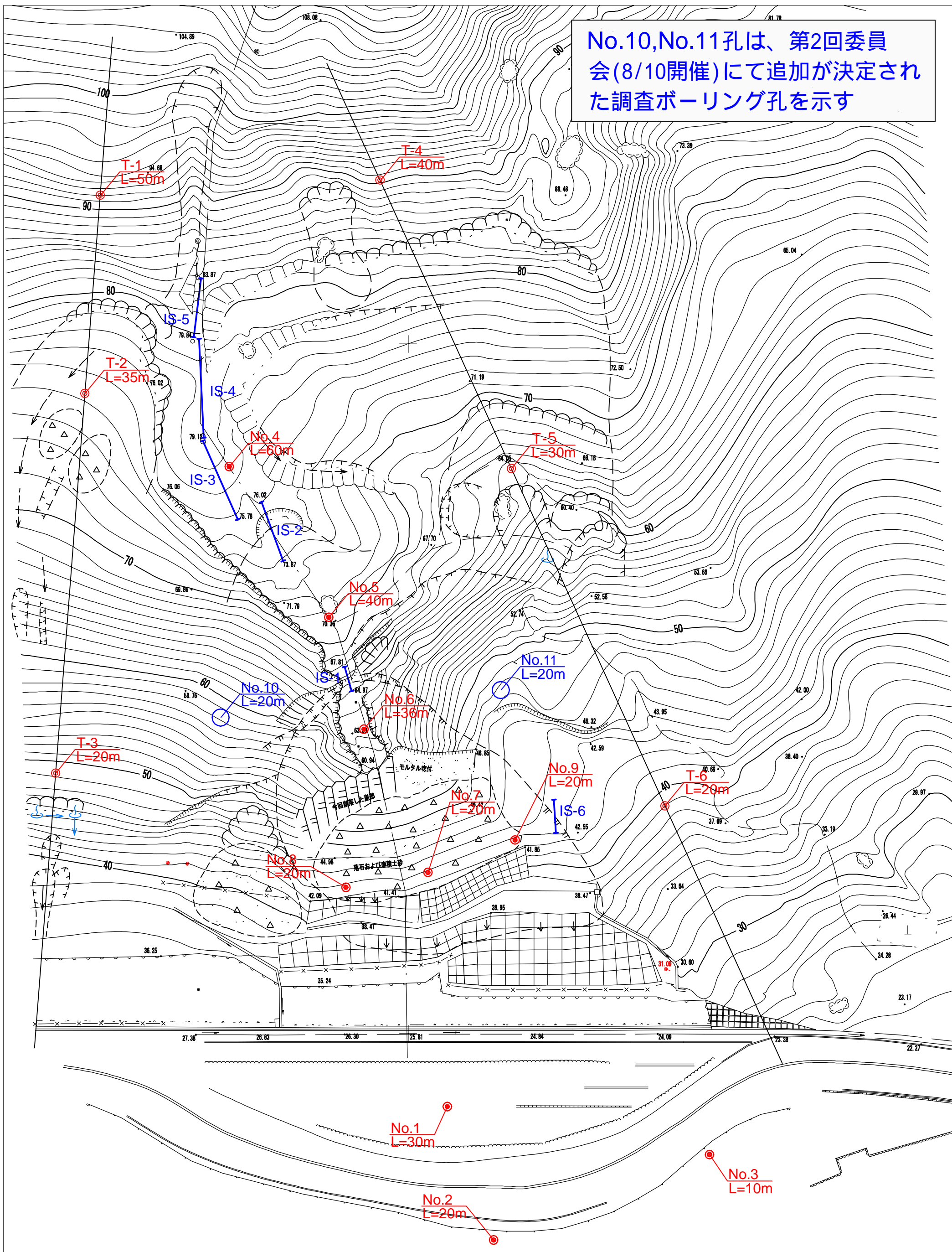
# 押え盛土計画図

## 横断図

S=1:400



No.10, No.11孔は、第2回委員会(8/10開催)にて追加が決定された調査ボーリング孔を示す



恒久対策に向けての地質調査計画 (S=1:500)  
(ボーリング実施箇所にはパイプ歪み計および地下水位計を設置する)